

天神段遺跡（野方）で

西日本最古の石剣

を発見

東九州自動車道建設に伴い発掘調査を行っている本町野方地区の天神段遺跡から縄文時代前期（約5千年前）の『石剣』が見つかりました。

県埋蔵文化財センターによると石剣は頁岩（けつがん）製で、長さ35cm、幅2.9cm、厚さ1.5cm、重さ約300g。全面がきれいに磨かれており、先端部や側面を鋭利に加工されていないことから、狩猟等に用いられたものとは言い難く、祭りや催事などの儀式用と推定されています。

今後、詳しく分析することによって、縄文時代の南九州のまつりの様子や縄文人の心を知る手掛かりになると考えられています。

この石剣は、鹿児島県上野原縄文の森（霧島市）で11月末まで展示されています。



▲石剣が発見された地層の場所をさす県立埋蔵文化財センター職員

出土した縄文時代前期石剣の状況

- 頁岩製、長さ35cm、幅2.9cm、厚さ1.5cm、重さ約300g
- 平成24年6月11日（月）、縄文時代前期の包含層から出土
- 曾畑式土器と同じ層で出土している。そのため、縄文前期中葉（約5000年前）の遺物と考えられる。
- 前面に研磨が施され、先端部や側面を鋭利に加工しておらず、狩猟等に用いる実用石器とは、言い難い。その形状から、東日本（特に北日本）の縄文時代前期にみられる石剣に類似する。
- 石剣は、九州管内で広義の刀剣状石製品として報告例が31例あり、いずれも縄文時代後・晩期の所産である。西日本を見ても、縄文時代前期の石剣に該当するものは皆無である。